

エデンの園 (1980)

GIARDINO DELL' EDEN
THE GARDEN OF EDEN

メディア 映画

ジャンル ロマン ス ドラマ

製作国 イタリア/日本

色彩 Color

時間 108分

初公開日 1980/12/13

公開情報 ヘラルド

【解説】

「エーゲ海に捧ぐ」や「窓からローマが見える」の系譜の日本資本による伊製ソフトポルノを、50～60年代を通じ精力的に、邦画界の旧弊を吹き飛ばす個性的な作品を作り続けた増村保造が作る理由はどこにあったのだろうか。単に経済的な問題でもあるまい。イタリアのCENTROで映画教育を受け、究めてヨーロッパ的な人間観を邦画に持ち込んだ彼はこの作品で、言わば先祖返りを果たしたかったのだ。現に、彼の演出上の特徴として知られる、ほとんど棒読みの台詞回しは、アフレコのイタリア映画だとおのずとそう聞こえる（彼らの話し方自体の問題もあるが）所の影響もあるのではないか。そして、彼はここでも純化されたいつものスタイルで、普通のイタリア映画とも明らかに違った台詞のかなり方を、役者たちにさせている（明らかに過剰だが）。そして、自身が脚本を書いた物語も実に彼好みだ。貧しい家の出のミケーレと金持ち娘アレッサンドラは愛し合っていたが、娘の両親に身分違いを問われて、その仲を引き裂かれる……。つまり“ロミオとジュリエット”だ。結末まで似ている。彼はこの広く流布した物語の再生を、その舞台となった（そして自分も風土をよく知る）イタリアで試みたかったのだ。灼熱の太陽の下、青い海を眼下に……。にしても、ここで彼の演出は図式的すぎた。そして、彼の望む以上にポルノ的場面を要求されましょう。従って、心ない人には愚作呼ばわりされる風変わりな作品が生まれてしまったのだ。

【クレジット】

監督	増村保造		
製作	熊田朝男		
企画	藤井浩明		
製作総指揮	テューリ・ヴァーシル	Turi Vasile	
脚本	レロス・ピットーニ	Leros Pittoni	
	増村保造		
撮影	マリオ・ヴルピアーニ	Mario Vulpiani	
美術	エンリコ・フィオレンティーニ		
編集	クラウディオ・クトリ		
音楽	ステルヴィオ・チプリアーニ	Stelvio Cipriani	
録音	ロベルト・アルベギーニ		
照明	ロマーノ・マンチーニ		
出演	ロニー・バレンテ	Ronni Valente	ミケーレ
	レオノーラ・ファニ	Leonora Fani	アレッサンドラ
	アントネッラ・ルアルディ	Antonella Lualdi	アレッサンドラの母
	アンジェラ・グッドウィン	Angela Goodwin	ミケーレの母

